

名古屋共立病院

公開医療講演会

第5回

入場無料

お申込不要

参加者に記念品進呈

日時

2013年2月23日(土) 午後2時～午後4時

場所

名古屋共立クリニック 5階研修室

「足は第2の心臓」と言われています。なぜならば、足は心臓から最も遠いところにあるため、心臓の働きだけでは血液が十分に届きません。歩行がそれを助けるポンプの役割をしているというわけです。歩行をしていると、足の筋肉の血管の伸縮運動が活発化し、足の血行がよくなります。足を交互に動かすことは、ポンプの役割をしながら血流を促しているということなのです。それは、心臓が膨らんだり縮んだりしながら血流を促しているのと同じことです。それで「足は第2の心臓」と言われています。

しかし「歩くとすぐに疲れてしまう」「足先がしびれる」といった症状はありませんか？

足先に栄養や酸素を送る血管にコレステロール等がたまり、狭窄(血管が狭くなる)や閉塞(血管が詰まる)が起こる状態を閉塞性動脈硬化症(ASO)といいます。閉塞性動脈硬化症(ASO)は糖尿病や高血圧、高脂血症といった生活習慣病があると、さらに発症しやすくなります。放置しておくと足先が壊死を起こし、下肢切断に至ってしまいます。

今回は閉塞性動脈硬化症(ASO)の早期発見、早期治療についてお話をさせていただきます。

講演

「年だからしかたない」「もう歩けない」とあきらめていませんか？



足は第2の心臓です。 その理由とは？

鴨井 大典 医師 名古屋共立病院 循環器内科部長兼心血管治療部長

- ・済寧医学院附属病院客員教授
- ・日本心臓血管内視鏡学会評議員
- ・日本心血管インターベンション治療学会(CVIT) 指導医・専門医
- ・日本循環器学会専門医
- ・日本内科学会認定医
- ・ICD(植え込み除細動器)・CRT実施医

お問い合わせ

052(362)5151(代) 名古屋共立病院 担当/平岡